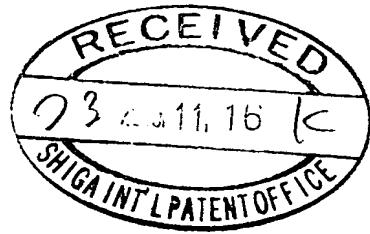


特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

代理人 志賀 正武 様	あて名 〒104-8453 日本国東京都中央区八重洲2丁目3番1号
-------------------	---



PCT
国際予備審査機関の見解書
(法第13条)
[PCT規則66]

出願人又は代理人 の書類記号 PC-9206	発送日 (日.月.年) 15. 11. 2005	
国際出願番号 PCT/JP2004/012152	応答期間 国際出願日 (日.月.年) 18. 08. 2004	優先日 (日.月.年) 27. 11. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H02J7/34, 7/02		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社エヌ・ティ・ティ フアシリティーズ		

1. 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と みなされる。
 みなされない。

2. この 2 回目の見解書は、次の内容を含む。

第I欄 見解の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 第IV欄 発明の単一性の欠如
 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 27. 03. 2006 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 矢島 伸一 電話番号 03-3581-1101 内線 3568	5T 9060
---	--	---------

第I欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

国際調査 (PCT規則12.3(a)、23.1(b))

国際公開 (PCT規則12.4(a))

国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するため提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの	
第 _____	ページ、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	
第 _____	ページ、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	

請求の範囲

第 _____	項、	出願時に提出されたもの	
第 _____	項、	PCT19条の規定に基づき補正されたもの	
第 _____	項、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	
第 _____	項、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	

図面

第 _____	ページ/図、	出願時に提出されたもの	
第 _____	ページ/図、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	
第 _____	ページ/図、	付けで国際予備審査機関が受理したもの	

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

4. この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

<input type="checkbox"/> 明細書	第 _____	ページ
<input type="checkbox"/> 請求の範囲	第 _____	項
<input type="checkbox"/> 図面	第 _____	ページ/図
<input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること)	_____	
<input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること)	_____	

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 2, 3	有
	請求の範囲 1	無
進歩性 (I S)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1 - 3	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1 - 3	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明

文献1: JP 3428015 B2 (ソニー株式会社) 2003.07.22, 全文、全図 & WO94/010718 & US 5680027 A & EP 622863 A1

文献2: JP 8-265987 A (インテグラル株式会社) 1996.10.11, [請求項1]、[0010] - [0012]、図1、図2 & US 5675233 A

請求の範囲1に係る発明は、新たに引用された文献1により、新規性、進歩性を有しない。文献1には、電源回路10と外部機器9とに並列に接続されたリチウムイオン電池4、充電経路の負荷変動に依存しない任意の値の充電電流を供給する充電電流制限回路S4、スイッチS1, S2、充電経路の電圧値の監視手段R1, R2, D1, R3、制御回路11, 12等が記載されている。

請求の範囲2, 3に係る発明は、文献1と国際調査報告に引用された文献2とにより、進歩性を有しない。文献2に記載されるバイパス手段等を文献1において採用することは当業者にとって容易である。